事例No.	2786
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	おんせん県いいサウナ研究所

事例区分	地域活性化

タグ	・観光 ・関係人口 ・公共施設活用

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

温泉のない大分県豊後大野市の新たな魅力「サウナのまち」プロジェクト

出典

令和４年度ふるさとづくり大賞事例集



温泉のない大分県豊後大野市の新たな魅力「サウナのまち」プロジェクト

おんせん県いいサウナ研究所

DATA

事　　例　名：おんせん県いいサウナ研究所
所　　在　地：大分県豊後大野市清川町三玉1699番地2
連　　絡　先：TEL 080-2255-8165
　　E-mail riversidesaunatown@gmail.com
ホームページ：https://iisaunalab.com

取組の概要

世界に誇る地域資源を有しながら、認知度が低かった豊後大野市。通過型観光から回遊型観光を目指し、今ある地域資源と「サウナ」を組み合わせることで新しい観光コンテンツを形成。温泉がないというデメリットを逆手にとったPRを行い、地域を生まれ変わらせた。さらに、地域の飲食店を巻き込み回遊型観光の仕組みを構築。まちをあげた取り組みとして全国に豊後大野市の名を発信し続けている。

評価された点

●地域資源のデメリットを逆手にとったユニークな取り組みに新たな地域の再生のあり方を示唆している点を評価。
●観光資源として恵まれない地域であるのを逆手にとり自分たちで一から観光資源を作り出す姿勢を評価。また、単独施設を作るだけでなく近隣店舗などと連携し街全体で活性化の仕組みを構築、発展させている点も評価。
●地元の飲食店と連携した「サ飯」や持続可能な間伐材の利用、市と連携した「サウナのまち」の宣言など、さまざまな団体の協力が輝く素晴らしい取り組みである。アウトドアサウナの利用者が5倍増加したという成果も評価。

取組のプロセス

取組を実施するに至った要因・背景や地域課題
その取組を実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ 2020年～
地元にある豊かな自然と石風呂の伝統文化からヒントを得て、観光客が五感を使って地元の大自然を満喫できるアウトドアサウナを提案。

2020年～

・豊後大野市は認知度が低く、活用策もなし。地元にある豊かな自然と石風呂の伝統文化に可能性を感じる。

おんせん県いいサウナ研究所

・アウトドアサウナ普及のため、市内で宿泊及び飲食サービス業を営む5社の経営者が「おんせん県いいサウナ研究所」を設立。



2021年～

・地域の特性を活かした独自のサウナ（鍾乳洞×サウナ、清流×サウナ、秘境×サウナ等）を5施設で導入し、活動を開始。

「サ飯」募集開始

・地元飲食店に協力を依頼し「サ飯」提供事業者の募集を開始。



2021年～

・新たな観光資源として行政も注目。
・豊後大野市と連携開始。

「サウナのまち」宣言

・官民一体となったサウナを通じてのまちづくり、誘客活動を進めていく全国初「サウナのまち」を宣言。

2021年～

第2回サウナ万博 in豊後大野

・地元飲食店によるサ飯、サウナドリンクの提供等、さまざまな企業と関わり、多方面への情報発信を実施（参加者数約150名）。





2022年～

ガイアの夜明け放送

・多くの全国メディアに取り上げられ、全国的な認知度向上。

今後の展望
・まちを巡りながら多種多様なサウナが楽しめる本当の意味での「サウナのまち」を目指して、市との連携を加速させ新たな取り組みを推進。

受賞者のコメント

こんにちは。おんせん県おおいたで、温泉が出ない町・豊後大野市で活動しているアウトドアサウナ協議会「おんせん県いいサウナ研究所」です。以後、お見知りおきをお願いいたします。この度は「令和4年度ふるさとづくり大賞」の団体表彰ということで大変光栄に思います。「“温泉が出ないからサウナ”は逆転の発想ですごいね」とよく言われますが、それは後付けでして、実はサウナが好きなメンバーで構成されているだけなんです。とはいえ色々と戦略的なこともありまして、実は…（長文になるので割愛）。大分県＝温泉とサウナの最強の県なので、豊後大野市でお待ちしております。